

資料2 一茶の生涯

小林一茶の生涯 [一茶研究会編]		
さみしい子どもの頃の一茶		
西暦(和暦)	年齢	事項
1763年(宝暦13年)	1歳	5月5日(新暦6月15日)信州柏原の農家の長男として生まれる。名は弥太郎、父弥五兵衛、母くに。
1765年(明和2年)	3歳	実母くに死去。後に詠んだ句に「我と来て遊べや親のない雀六歳弥太郎」と記している。
1770年(明和7年)	8歳	継母「はつ」が来る。
1772年(安永元年)	10歳	異母弟仙六(せんろく)が生まれる。 一茶は、新しい母になじめなかった。
1776年(安永5年)	14歳	一茶をかわいがってくれた祖母「かな」死去。
江戸で俳諧と出会う一茶		
1777年(安永6年)	15歳	春、江戸へ奉公に出る。以後10年間の消息は不明。
1783年(天明3年)	21歳	浅間山噴火。天明の大飢饉。千葉県松戸馬橋(まばし)の大川立砂(おおかわりゅうさ)のもとに奉公したと伝えられる。
1787年(天明7年)	25歳	葛飾派(かつしかは)の指導者溝口素丸(みぞぐちそまる)(渭浜庵(いひんあん))の執筆(しゅひつ)を務める。 葛飾派の小林竹阿(こばやしちくあ)(二六庵(にろくあん))に師事する。
1788年(天明8年)	26歳	葛飾派の森田元夢(もりたげんむ)(今日庵(こんにちあん))に師事する。このころ、「菊名(きくめい)」の名を使用する。
1790年(寛政2年)	28歳	師の小林竹阿が死去。江戸からの帰村を奨励する旧里帰農令(寛政の改革の一つ)が発令される。
1791年(寛政3年)	29歳	4月、江戸に出てからはじめて柏原に帰る。帰郷の様子を「寛政三年紀行」に著す。この頃から「一茶」を名乗る。
修業の旅に明けくれる一茶		
1792年(寛政4年)	30歳	3月、西国行脚に出発。足かけ7年の旅をする。「知友録」は、寛政初年にまとめた交遊俳人住所録。 夏、京坂地方を訪れる。旅の様子は「寛政日記」に執筆。
1795年(寛政7年)	33歳	師の溝口素丸が死去。 秋、大津の義仲寺(ぎちゅうじ)の芭蕉忌に参加する。
俳諧師として活躍する一茶		
1800年(寛政12年)	38歳	関西で出版された「諸国人気俳人番付」に「前頭江戸一茶」として登場する。
1801年(享和元年)	39歳	4月、帰省中に父が傷感(しょうかん)を発病、5月に死去。遺産分配をめぐり継母・弟と対立が始まる。父の死を、後に「父の終焉日記(しゅうえんにつき)」にまとめる。
1804年(文化元年)	42歳	このころより、葛飾派を離れ夏目成美(なつめせいび)や鈴木道彦(すずきみちひこ)らの句会に出席、交流を深める。

1807年（文化4年）	45歳	父の七回忌法要のため帰郷、この年2度の遺産交渉を行う。
1808年（文化5年）	46歳	柏原永住を決意して帰郷、弟と遺産分配の約束をとりかわし、証書「取極一札之事」を提出する。 柏原村の本百姓として登録される。「草津道の記」 弟に賠償三十両を要求、交渉が決裂し、江戸へもどる。
1809年（文化6年）	47歳	柏原へ帰り、遺産交渉を行う。「急遞記」は寛政10年（1798）から文化6年（1809）までの発来信の控え。 高山村紫の久保田春耕（くぼたしゅんこう）を訪れ、以後親しい交際が始まる。
1810年（文化7年）	48歳	柏原へ帰り、遺産交渉を行う。 日滝（須坂市）蓮生寺（れんしょうじ）に、一茶、成美、完来（かんらい）の選による俳額が上がる。
1811年（文化8年）	49歳	このころ、「諸国人気俳人番付」の上位5人の中に位置づけ
1813年（文化10年）	51歳	亡父十三回忌を行う。弟と和解、父の遺産の半分を受け取る。
1814年（文化11年）	52歳	「きく」28歳と結婚。
1816年（文化13年）	54歳	長男千太郎（せんたろう）が生まれるが、まもなく死去。
1817年（文化14年）	55歳	江戸へ出る。房総の知友を訪れる。
1818年（文政元年）	56歳	長女「さと」生まれるが、翌年死去。七番日記は、1810年正月から1818年12月までの9年間の記録。
1820年（文政3年）	58歳	次男石太郎（いしたろう）生まれるが、翌年死去。文政2年八番日記風間本。 中風を発病、言語障害になるがまもなく回復。 「おらが春」執筆。
1822年（文政5年）	60歳	三男金三郎（こんざぶろう）生まれるが、翌年死去。 「まん六の春」、「文政句帖」、「田中河原の記」。
1823年（文政6年）	61歳	妻「きく」37歳で死去。 このころ「諸国人気俳人番付」の評価は首位となる。
晩年の一茶		
1824年（文政7年）	62歳	「ゆき」38歳と再婚するが、まもなく離婚。
1826年（文政9年）	64歳	「ヤヲ」32歳と三度目の結婚をする。
1827年（文政10年）	65歳	柏原の大火事で母屋類焼、焼け残りの土蔵に移る。北信濃の門人宅を訪ね俳諧の指導をして歩く。文政九～十年句帖写。
1828年（文政11年）	65歳	11月19日（西暦1月5日）仮住まいの土蔵の中で死去。
1828年（文政11年）	没後	死去「ハツ」死去。「ヤヲ」に娘「やた」が生まれる。

□年齢は数え年で表記しています。満年齢では、およそ-1歳です。